

令和5年度「伊勢市高校生議会」記録



伊勢市議会

■日時

令和5年8月10日（木）午後1時29分～午後4時02分

■出席者

（高校生）

1. 伊勢高等学校
1番 山口颯斗議員、2番 山本泰雅議員
2. 宇治山田商業高等学校
3番 東桃花議員、4番 西村琉愛議員、5番 森本新波議員
3. 皇學館高等学校
6番 百々彩乃議員、7番 川原咲世議員、8番 文珠榮太議員
4. 英心高等学校
9番 作田湧紗久議員、10番 西川和志議員、11番 石井成昂議員、
5. 伊勢学園高等学校
12番 清川歩楓議員、13番 大田帆乃夏議員、14番 家田梨瑚議員
6. 伊勢まなび高等学校
15番 池山愛理議員、16番 西山龍青議員、17番 廣桐威議員
7. 宇治山田高等学校
18番 田畑紗耶花議員、19番 西原玲菜議員、20番 木村董議員
8. 伊勢工業高等学校
21番 世古口仁汰議員、22番 加藤光樹議員

議長役 百々彩乃議長（皇學館高等学校）、山口颯斗議長（伊勢高等学校）、
山本泰雅議長（伊勢高等学校）、山崎成悟議長（宇治山田商業高等学校）

（伊勢市議会議員）

品川幸久議長、福井輝夫副議長

上村和生広報広聴検討分科会会長、藤原清史広報広聴検討分科会副会長・教育民生委員会委員長、野崎隆太産業建設委員会委員長、野口佳子産業建設委員会副委員長、辻孝記教育民生委員会副委員長、岡田善行総務政策委員会委員長、大西要一総務政策委員会副委員長、久保真広報広聴検討分科会委員、井村貴志広報広聴検討分科会委員

宿典泰議員、浜口和久議員、西山則夫議員、吉岡勝裕議員、吉井詩子議員、鈴木豊司議員、楠木宏彦議員、北村勝議員、中村功議員、宮崎誠議員、川口浩議員、三野泰嗣議員

（伊勢市長）

鈴木健一市長

■ 記録

開 会



◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長

ただいまから、伊勢市高校生議会を開催いたします。

私は、伊勢市高校生議会を企画・立案しました議会のあり方調査特別委員会広報広聴検討分科会の副会長を務めております、藤原清史と申します。よろしくお願いたします。始めに、主催者を代表し、品川幸久議長より御挨拶を申し上げます。

議長あいさつ



○品川幸久伊勢市議会議長

みなさん、改めましてこんにちは。伊勢市議会議長の品川でございます。

令和 5 年度伊勢市高校生議会の開催にあたりまして、市内 8 校から御参加をいただきました高校生議員の皆さんを始め、御尽力をいただきました各高等学校の関係者の皆様方、引率の先生方にまずもって感謝を申し上げたいと思います。

伊勢市高校生議会は、皆さんが政治に参画していただくことを目指し、主権者教育の一環で、日頃感じている市政に対する疑問点やこれからの伊勢市に望むことを議員となって御質問いただき、市政や議会への関心をより一層高めていただくことを目的に開催をするものです。まちづくりや地域の課題は多種多様で、どのように解決すべきか、また、私たち一人一人に何ができるのか、広く考えることが求められております。事前に皆様方に

いただきました質問を見せていただきましたところ、今後の市政に大いに参考になると感じたところであります。

本日は、慣れない場所なので、緊張もされていると思います。肩の力を抜いて、若さあふれる元気な声を聞かせてほしいと思います。

最後になりますが、伊勢市高校生議会が皆さんにとって、そして、当市にとって有意義なものとなりますよう御祈念を申し上げまして、主催者を代表しての挨拶といたします。本日は、よろしくお願いいたします。

◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長

品川議長、ありがとうございます。

続きまして、鈴木健一市長より御挨拶をいただきます。

市長あいさつ



○鈴木健一伊勢市長

皆さん、こんにちは。本日は、伊勢市高校生議会がこのように開かれますことを心から御祝い申し上げたいと思っております。また、御尽力をいただきました高校の先生方、また、関係者の皆様方に御礼を申し上げたいと思います。

皆さんの投票権が18歳以上となりました。皆さん御承知のとおり、この統一地方選挙で投票された方もいらっしゃるかと思います。ぜひ、投票だけではなくて、まちのことについて、関心をもって、そして、いろんなことを考えて、そして意見を交わせる、そんな環境づくりにも御尽力いただければというふうに思っております。

前回は、コロナ前にも開催をされまして、その時も非常にこうたくさんの方の御意見もいただきました。私たちが気付かない点だとか、皆さんが本当にこれが大切なんやと思っっている点も聞かせていただいて、本当に我々もそういうことを考えてかないかなというところも考えさせられたところがございます。

ぜひ、今回の経験を活かしながら、皆さんがまちづくりの主演となっていくことを心から願ひまして、挨拶に代えさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長

鈴木市長、ありがとうございます。

続きまして、高校生議員の紹介に移ります。

議会事務局長より紹介をお願いいたします。

○北村勇二伊勢市議会事務局長

議会事務局長の北村です。それでは、お手元の伊勢市高校生議会プログラムの席次表の議席番号順で、学校ごとに名前をお呼びしますので、1人ずつ返事をして、起立をし、最後に全員で礼をして、着席をしてください。

始めに、伊勢高等学校、1番 山口颯斗議員、2番 山本泰雅議員。続きまして、宇治山田商業高等学校、3番 東桃花議員、4番 西村琉愛議員、5番 森本新波議員。続きまして、皇學館高等学校、6番 百々彩乃議員、7番 川原咲世議員、8番 文珠榮太議員。続きまして、英心高等学校、9番 作田湧紗久議員、10番 西川和志議員、11番 石井成昂議員。続きまして、伊勢学園高等学校、12番 清川歩楓議員、13番 大田帆乃夏議員、14番 家田梨瑚議員。続きまして、伊勢まなび高等学校、15番 池山愛理議員、16番 西山龍青議員、17番 廣桐威議員。続きまして、宇治山田高等学校、18番 田畑紗耶花議員、19番 西原玲菜議員、20番 木村堇議員。続きまして、伊勢工業高等学校、21番 世古口仁汰議員、22番 加藤光樹議員。以上で、高校生議員の紹介を終わります。

続きまして、参加議員の紹介に移ります。先ほど、御挨拶を申し上げました品川議長と進行を行っております広報広聴検討分科会の藤原副会長以外の参加議員につきまして、順に名前をお呼びしますので、その場で御起立をお願いいたします。

始めに、福井輝夫副議長。上村和生広報広聴検討分科会会長。続きまして、野崎隆太産業建設委員会委員長。続きまして、野口佳子産業建設委員会副委員長。続きまして、辻孝記教育民生委員会副委員長。続きまして、岡田善行総務政策委員会委員長。続きまして、大西要一総務政策委員会副委員長。続きまして、久保真広報広聴検討分科会委員。続きまして、井村貴志広報広聴検討分科会委員。続きまして、宿典泰議員。続きまして、浜口和久議員。続きまして、西山則夫議員。続きまして、吉岡勝裕議員。続きまして、吉井詩子議員。続きまして、鈴木豊司議員。続きまして、楠木宏彦議員。続きまして、北村勝議員。続きまして、中村功議員。続きまして、宮崎誠議員。続きまして、川口浩議員。続きまして、三野泰嗣議員。

以上で、伊勢市議会の参加議員の紹介を終わります。

◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長

ただいまから伊勢市高校生議会の議長は、皇學館高等学校の百々彩乃議長、伊勢高等学校の山口颯斗議長、山本泰雅議長、宇治山田商業高等学校の山崎成悟議長の順に務めていただきますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、皇學館高等学校の百々彩乃議長、議長席にお着き願います。

各校の質問及び答弁



◎皇學館高等学校百々彩乃議長

皇學館高等学校の百々彩乃です。よろしくお願いいたします。

これより市政に対する質問を行います。

発言通告がありますので、順次許可することにいたします。

始めに、伊勢高等学校、1番 山口颯斗議員、2番 山本泰雅議員。

伊勢高等学校

【教員の過重労働問題について】



○伊勢高等学校

【1番 山口颯斗議員、2番 山本泰雅議員】

伊勢高校です。よろしくお願いいたします。まず、私たち高校生に伊勢市の行政を知る貴重な機会を提供してくださり、心から感謝しております。

私たちは、「教員の過重労働問題について」質問させていただきます。スライドを4枚準備させていただきましたので、そちらもごらんください。

【資料①】中学校の教員を例に出すと、令和元年度のOECDの調査では、日本の教員の仕事時間は平均すると、56.0時間と、労働基準法で定められている週40時間という規定を大幅に上回っております。伊勢市でも令和元年9月1日号、いせ市議会だより第56号の一般質問答弁の記事によると、平成30年度の調査で1週間あたり、51.6時間と、全国的にみると比較的少ない方であったが、とても改善できているというレベルのもので

はありませんでした。そこで、現在の教員の勤務時間を減らすような取組があれば、教えていただきたいです。また、私たちなりに改善案を考えてみたので、参考にさせていただけると幸いです。

【資料②、③】 1つ目の案は、愛媛県で実践されている大学生スクールサポーター制度です。この制度は地方公務員として、授業以外の業務を大学生に委託したり、学生と年齢も近いことから、学生目線で生徒の相談に乗ることもできます。また、土日に実施されることの多い、模試の監督であったり、本職の教員の仕事を大幅に減らすことが期待されます。また、大学生にとっても、教員の仕事を自分が働きだす前に知れたり、業務を経験することで、実際の教育現場で即戦力となるような人材を育てたりすることができると思います。

【資料④】 2つ目の案は、名古屋市中区、市立中学校で取り入れられている担任チーム制です。この学校では週替わりで3クラスを5人の先生が受け持ちます。残りの2人の先生が職員室での業務を主に担当します。そうすることで、教員一人当たりの業務時間を大幅に減らすことが期待できます。実際にこの学校では労働時間を10時間減らすことができたとのことでした。

教員の労働問題についてまだまだ気になる点が多いです。例えば残業代を働いている時間に合わせて支払うようにした方がいいのではないかと考えました。ですが、お金の問題だけでなく、教員の自由な時間を確保することが私たちは一番大事だと考えます。他県の事例なども踏まえて、いろいろ考えてみていただきたいです。以上です。

◎皇學館高等学校百々彩乃議長
教育民生委員会、楠木委員。



●楠木宏彦教育民生委員会委員

伊勢高等学校の皆さん、この度は、教員の勤務時間を減らすための具体的な改善策を御提示いただき、ありがとうございます。

令和元年度の伊勢市における教職員の月平均の勤務時間外労働の時間については、小学校が28.7時間、中学校では46.7時間となり、全体で38.5時間でした。

勤務時間外労働の主な要因として、小学校では学習指導や学校運営、これは児童・保護者対応等であって、中学校ではさらに部活動指導が挙げられます。そのため、どうしても中学校の教職員の勤務時間外労働が多い状況です。現在、勤務時間外労働を月45時間、

年 360 時間を上限として、長時間労働の是正に向けた取組を行っているところです。効果的な取組としましては、外部人材を活用した業務削減があります。これはスクールカウンセラーや教育相談員、部活動指導員、スクールサポートスタッフ、教育支援ボランティアなど、様々な地域人材・専門人材を有効に活用するものです。すでに大学生などの教育支援ボランティアやスクールサポートスタッフも各小中学校に多数配置されており、改善策として挙げていただいた案 1 がこれに該当すると思います。そしてまた、他にも、会議、研修等のオンライン開催や、伊勢市においては校務支援システムを導入するなど、ICT を積極的に活用することで、業務の効率化を図っています。

また、部活動においては複数顧問を置くことも進めています。これは、案 2 に類似しているのではないかと思います。

これらの取組を進めることで、令和 4 年度の伊勢市の教職員の月平均の時間外勤務は小学校では 21.4 時間、中学校では 36.8 時間、全体では 26.8 時間ということで、約 31% の削減になっています。とはいえ、まだまだ不十分な状況です。根本的には教員数が足りない、ここが問題なので、国の教員定数、これの是正がまずは求められるところではないかと思うんですけども、市としましても御提案のありました 2 つの事例も参考にさせていただいて、多様なスタッフをさらに充実させていきたい、このように考えております。

それから、部活動につきましては、中学校の教員にとって非常に大きな負担となっておりますので、これは今後地域との連携も視野に入れながら、改善を進めていきたいと思っております。以上でございます。

◎皇學館高等学校百々彩乃議長
伊勢高等学校。

○伊勢高等学校

【1 番 山口颯斗議員、2 番 山本泰雅議員】

答弁いただきありがとうございます。答弁を踏まえて、ICT の活用について質問をします。具体的に ICT を使ったことによって、実際の教員の作業量が減った事例と、ICT について、教育の面でどういう制度ができたらいと考えますか。

私たち自身は、スマホや Chrome を使って学校からの連絡を受け取ったり、アンケートに回答する機会が多いです。このアンケート機能を活用して、生徒の声、先生方の声を聞く機会を増やし、教育現場の現状を市民に知ってもらうことで、学校教育について理解してくださる人が増えれば、自然と支援者が増えるのではないかと考えました。

◎皇學館高等学校百々彩乃議長
教育民生委員会、楠木委員。

●楠木宏彦教育民生委員会委員

それでは、再質問にお答えします。まず、教員の作業量が減った事例ですが、伊勢市では、三重県教育委員会より教職員・児童生徒に付与されている Google アカウントに基づいた Google for Education を活用しています。活用の具体的な

事例としましては、まずはG o o g l e F o r m sがあります。インターネット上でアンケートに答えてもらい、自動集計やグラフ作成が可能になり、紙のアンケートに比べ、作業を大きく減らすことができました。

次に、G o o g l e C l a s s r o o mがあります。職員共有の掲示板として活用されており、情報の書き込み、共有により、朝の打ち合わせなどの会議を減らすことができました。

そして、伊勢市独自で活用している学習支援ソフトのロイロノートで宿題の配信や回収を行っている事例、あるいは、ドリルパークでの自動採点、個別最適化された問題の配信を行っております。ICTを活用することで効率よく宿題を配信したり、自動採点をしたりすることで、教員の作業量が削減されました。

その他、伊勢市では、市内公立小中学校において、令和4年度より校務支援システムを導入・活用し、データ入力の簡素化、予定や連絡などの情報共有を図ることができました。

次に、ICTについて、教育の面でどういう制度ができればよいかということですが、ICT支援員の各校1人配置の制度化が考えられます。国の目標水準では、ICT支援員の配置が小中学校の4校に1人とされており、伊勢市ではこの水準を満たしてはおりますけれども、G I G Aスクール構想によって導入された一人一台の端末、そして、各校で活用されている膨大なソフトのアカウント管理など、情報教育担当教員の負担が大きくなっています。ICT活用を支援できる専門の人材を各校に1人ずつ配置できる制度を整えることによって、学校現場の負担が軽減され、G I G Aスクール構想がより進展できると考えます。

以上で、伊勢高等学校の皆さんの再質問への答弁とさせていただきます。

◎皇學館高等学校百々彩乃議長

伊勢高等学校。

○伊勢高等学校

【1番 山口颯斗議員、2番 山本泰雅議員】

再度、答弁いただきありがとうございます。今回伊勢市の教員の働き方の現状及び現時点での考えを伺うことができたことで、改めて現在伊勢市が抱えている課題を知ることができました。そして、伊勢市高校生議会を通して、教育問題について興味が湧いてきたので、さらに自分たちでも調べてみたいと思いました。本日はいろいろと教えてくださり、ありがとうございました。

資料 伊勢高等学校パネル資料

【資料①】

中学校教員の場合

<基準> 労働基準法：週40時間

<日本の教員>：平均56・0時間

<伊勢市>：平均51・6時間（平成30年度の調査より）

【資料②】

<案1> 「大学生スクール・サポーター制度」

「先生を目指す大学生の場合」

<教育実習>




先生の授業を実践

大学の授業の一環なので無償

引用元：【教師の働き方改革】救世主は大学生!? 先生を救う“スクールサポーター”とは？ 愛媛 NNNセレクション

【資料③】

「大学生スクールサポーター制度」



授業以外の先生の授業を体験

大学1年生からOK!

地方公務員のため給料あり

【資料④】

＜案2 「担任チーム制」＞

(例1) 中学校1年生2学級に3人の教員が週ごとに入れ替わりながら学級業務を行う。



学級を担任せず学年全体を見通す日や週を作り、より柔軟に児童生徒・保護者への支援を行えるようにする。

(例2) 小学校5、6年生4学級に5人の教員が週ごとや月ごとに入れ替わりながら学級業務を行う。



学級を担任しない日は、学年の事務処理や担当教員のサポートを行うなどの業務に携わることも可能。

引用元：神戸市役所 市立学校における「学年（チーム）担任制」モデル実施校の決定

宇治山田商業高等学校

【災害が起きた時の対策について】

◎皇學館高等学校百々彩乃議長

次に、宇治山田商業高等学校、3番 東桃花議員、4番 西村琉愛議員、5番 森本新波議員。



○宇治山田商業高等学校

【3番 東桃花議員、4番 西村琉愛議員、5番 森本新波議員】

このたびは、このような時間をいただきありがとうございます。私達3名はそれぞれ異なる市と町に暮らしながら、伊勢市の宇治山田商業高校に通っています。

そこで、伊勢市だけではなく、三重県全体の共通課題として、津波や地震に対する対応が挙げられました。これらについて質問させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

数年、数十年先に南海トラフ地震が起こると予想されていますが、私達の世代は地震、津波を経験したことがなく、避難することや避難生活に心配をしています。そこで、質問させていただきたいのですが、備蓄の食料は避難場所にあると思いますが、伊勢市全体の人口に対する食料の割合はどのくらいなのか。また、何日分ほどあるのか。

先日、伊勢市の津波浸水予測図を見たときに、津波到達時間が40分未満の地域がありました。津波から逃げるのが困難な地域があると思うのですが、その人たちはどうなりますか。以上で終わります。

◎皇學館高等学校百々彩乃議長
総務政策委員会、大西副委員長。



●大西要一総務政策委員会副委員長

宇治山田商業高等学校の皆さんからの御質問、「災害が起きた時の対策について」にお答えをいたします。

南海トラフ地震は、政府の地震調査委員会によると、30年以内に、70～80%の確率で発生する可能性があるとして予測されています。

始めに、備蓄に関する質問にお答えいたします。災害時の支援物資に対する基本的な考え方ですが、南海トラフ地震のような大規模災害が発生した場合、国、県、市の役割分担が事前に決められており、発災後、1～2日目は市、3日目は県、4日目以降は国が、それぞれ必要な物資を供給する体制となっています。

このことから、市が担っている発災後1～2日目に必要な物資を備蓄するための計画として伊勢市備蓄計画を策定し、備蓄物資を計画的に購入、管理しています。伊勢市では三重県が公表している南海トラフ地震の被害想定を基に備蓄数量を算出しており、伊勢市の人口の約60%に当たる、およそ7万人の市民が被災すると想定をしております。備蓄につきましては、各家庭において3日以上以上の食料や飲料水などの備蓄を啓発しており、地域の自主防災隊に対しても防災物資の備蓄に関して補助を行い、地域の備蓄を推進しています。これにより、被害想定を基にした必要数量の約80%が各家庭や地域で備蓄され、残りの約20%を市が補完することとしており、市では食糧を約84,000食、飲料水を500mlペットボトルで約28万本などを備蓄することとしています。

また、市の備蓄については、各避難所に一定量を保管していますが、スペースに限りがあるため、そのほかの物資は市内にある拠点防災倉庫に備蓄しており、災害の状況に応じて供給する想定をしています。なお、公的な備蓄としては、一般的な品目が供給されるため、避難生活を送る上で、コンタクトレンズやお薬など、個人特有のものについてはそれぞれで備蓄していただく必要があります。これを機会に、皆さんにとって必要な品目は何かあるのかなど、友達や家族と話し合いの場を持っていただき、備蓄をしておいていただきたいと思っております。

次に、津波に関する質問にお答えします。津波からの避難が困難な地域に暮らす方々が、30分以内に避難ができるよう、小中学校等の建物に外付け階段の設置や、合計8か所の津波避難施設の整備をいたしました。また、民間施設と協定をして、屋上などを避難

場所として利用できるよう、環境整備を行い、津波からの避難困難区域を解消したところ
です。皆さん、お住いの地域の防災マップを見るなど、避難に関する正しい知識を身に付
けていただき、地域の避難訓練への参加や家族で避難について話し合うなど、やがて来る
であろう地震・津波に備えていただきたいと思います。

以上で、宇治山田商業高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。

◎皇學館高等学校百々彩乃議長

宇治山田商業高等学校。

○宇治山田商業高等学校

【3番 東桃花議員、4番 西村琉愛議員、5番 森本新波議員】

御返答ありがとうございます。最低3日分の食料が必要ということが分かり、避難生
活を送るにあたって、供給される備蓄だけに頼らず、個々で必要となってくる最低限の備
蓄は、私たち自身でできるだけ多く確保したいと思いました。津波避難施設があるとい
うことを認識しなければならないので、一番大切なことは、家族で話し合い、避難場所を確
認し、自分の身を守るということだと分かりました。

以上です。ありがとうございました。

◎皇學館高等学校百々彩乃議長

ただいまより、14時20分まで休憩とします。再開3分前にブザーが鳴りますので、ブ
ザーが鳴りましたら、自席までお戻りください。

休憩 午後2時03分

再開 午後2時18分



◎伊勢高等学校山口颯斗議長

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

伊勢高等学校の山口颯斗です。よろしくお願ひいたします。

市政に対する質問を継続いたします。

皇學館高等学校

【観光地活性化とグローバル化について】

◎伊勢高等学校山口颯斗議長

次に、皇學館高等学校、6番 百々彩乃議員、7番 川原咲世議員、8番 文珠榮太議員。



○皇學館高等学校

【6番 百々彩乃議員、7番 川原咲世議員、8番 文珠榮太議員】

皇學館高校より、「観光地活性化とグローバル化について」御質問いたします。

伊勢市のホームページを見て、外国人観光客数の統計を確認しました。令和5年に入ってから神宮参拝者数は前年度より確実に増加しており、外国人の参拝者数も平均して月約6,000人と考えられます。5月の感染症法上の位置づけ変更後も一層増加しているのではないかと考えられますが、ここで、1つ目の質問です。2019年以前と2020年以降では、伊勢市を訪れる外国人観光客数とその消費金額動向はどれくらい異なっているのか、統計などがあれば教えてください。

また、3月の報道で、伊勢志摩および周辺地域が「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」のモデル観光地として選定されたと知りました。富裕層の外国人旅行者を地方に呼び込むためのモデル観光地とのことですが、伊勢市としてはどのような国・地域から、インバウンドを期待しており、その消費動向を分析されているのかを2つ目の質問といたします。

私たちがこの報道の認知度を、同級生295人と教員41人に校内アンケートをしましたが、次のような結果でした。【資料①】質問①、伊勢志摩が、「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」のモデル観光地に選定されたことを知っていたか。生徒、知っていた4%、知らなかった96%。教員、知っていた17%、知らなかった83%。

【資料②】質問②、富裕層の外国人旅行者とは、どのような国・地域をイメージするか。特に多かった国・地域5つは、アメリカ、中国、イギリス、フランス、ドバイという結果でした。その他は資料を見てください。

私たちがこれらのことについて気になったのは、6月の高校生異文化交流教室に参加した際、フランス人の先生に日本における観光地めぐりの魅力と不便な点をお聞きしたからです。その先生によると、日本の魅力の中でも、やはり食文化への関心はフランス本国で

も高いそうです。特にお寿司やお刺身など、生の魚を食べる文化が独特であるとのことでした。

一方、そのフランス人先生からお話を伺った際に、来日して不便に感じた点として、言葉の壁を挙げられていました。日本語学習の壁はたいへん高いため、観光地でも苦勞されることが多いそうです。例えば、英語表記を見かける日本の観光地ですが、全ての国の人々が英語に堪能なわけではないので、もっと多言語に対応してくれたら便利なのにといいことでした。

そこで、平成 29 年に実施された伊勢市インバウンドエリアマーケティング事業結果概要を見ると、「伊勢神宮や伊勢の雰囲気を変えないよう看板は日本語と英語のみ、もしくはマークのみが良い。看板が増えすぎて観光地化されてしまうことを外国人は望んでいない。」という報告がありました。この調査結果は 6 年前のものですが、言葉の壁について、現在暮らしている外国人と伊勢市の調査報告に矛盾が生じているのではないかと感じました。もちろん私たちも看板が増えすぎてしまい、伝統的な景観を損なうことについては、賛成ではありませんが、今後、外国人観光客数を増やそうと考える上では、やはり、多様な言語文化をもつ外国人へのおもてなしとして、言葉の壁を取り払う工夫が必要ではないかと考えました。

先ほどのモデル観光地を目指すなら、なおさら多様な外国人観光客に対応できる都市という印象を与え、伊勢市に行ってみたいという気持ちを喚起させることが重要なのではないかと感じます。

これらに加えて、伊勢市ではこのような体験ができる、そして、楽しかったと感じてもらえるニューツーリズムを開発することが必要になると分析しています。

そこで 3 つ目の質問として、外国人および国内に暮らす外国人向けのニューツーリズムの方向性など、伊勢市の今後のビジョンを教えてください。私たちも外国人向けのニューツーリズムの提案をしてみようと思ひ、先ほどの同級生 295 人と教員 41 人にアンケートを実施しました。そこからは、このような体験ツアーがあれば、外国人観光客も伊勢市に来てくれるのではないかという意見が挙げられました。次のとおりです。

【資料③】 大阪、京都など、有名観光地からもアクセスしやすく、お得な印象を与えるため、鉄道業界や宿泊施設とタイアップしたお値打ちプランパッケージを外国人向けに宣伝する。ニューツーリズムとして、体験型アクティビティを多く用意する。例えば、伊勢名物餅作り体験、茶道や武道などの日本文化体験、伊勢木綿の着付体験、釣り体験、忍者体験やアニメなど、そのためにも、多様な言語に対応した案内所やリモート観光案内端末の拠点を増設して、来客者に安心感を与える。宣伝は、SNS を活用することが考えられるが、そのための外国人インフルエンサーを獲得する方法など、インバウンド向け広告の戦略を立てる。日本人の精神の核でありながら、柔軟で多様な国際感覚をもち、ダイバーシティを実現する都市となれば、伊勢市を外国人向けに新たなブランディングする機会になるのではないかと思います。

以上の私たちの質問と提案に、伊勢市としての御回答と御感想をいただきますようお願いいたします。

◎伊勢高等学校山口颯斗議長
産業建設委員会、野口副委員長。



●野口佳子産業建設委員会副委員長

皇學館高等学校の皆さんからの御質問「観光地活性化とグローバル化について」にお答えいたします。

まず、1つ目の御質問、2019年以前、コロナ以前と2020年以降、コロナ以降では、伊勢市を訪れる外国人観光客数とその消費金額動向の概算はどれくらい異なっているのか、についてですが、市が公表しております、伊勢市観光統計〔資料編〕に、神宮司庁から資料提供を受けた令和4年以前の神宮外国人参拝者数について掲載しております。

コロナ禍の影響を強く受け始めた後の2020年から2022年の3年間の外国人参拝者数の平均は、月、約1,300人で、影響を受ける前の2017年から2019年の3年間の平均が、月、約8,400人となりますので、御意見のとおり、令和5年から一定の回復は見られるものの、大きな影響があったと考えております。

また、消費動向については、伊勢市区域内で観光消費額の調査は実施していませんが、全国的にも訪日外国人旅行者数がコロナ禍での渡航制限等の影響もあり、激減し、消費動向に大きな影響を与えている状況にあることは、観光庁の全国的な調査結果から明らかになっております。観光庁が公表しております、観光立国推進基本計画では、訪日外国人旅行者数の実績値として、2019年が3,188万人であったのに対し、2020年は412万人まで落ち込んだことが公表されております。訪日外国人旅行消費額についても、2019年が4.8兆円であるのに対し、2020年は0.7兆円と試算され、コロナ禍の影響は、当市を含め、全国的に大きかったと推察できるところです。

次に、地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりのモデル観光地につきましては、広域観光を実施している、公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構が中心となり事業を実施していく予定となっております。当事業は、高付加価値旅行層にターゲットを完全にシフトするものではなく、高い発信力を期待できる高付加価値旅行層を惹きつける地域の魅力づくりを進め、実際に誘客することで、観光地としての提供価値やブランド力が向上し、該当のターゲット以外の幅広い旅行者の誘客拡大を目指すものです。現時点では、公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構、一般社団法人明和観光商社、一般社団法人東紀州地域振興公社の3つのDMO、DMOとは、地域と協働して観光地域づくりを行う法人のことですが、それと三重県が準備会を構成し、事業内容を検討してい

く状況となっております。

その中で、2つ目の御質問にあります、当事業における伊勢市における外国人旅行者数の目標値についてですが、前述のとおり広域連携での事業となっているため、公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構における計画、伊勢志摩観光振興プランなどを踏まえて、目標値の設定をしております。具体的には、前回の神宮式年遷宮時、2004年から2013年における、前年比伸び率の実績を乗じた目標となっており、中期目標としている2033年での延べ宿泊客数は695万人、外国人延べ宿泊客数は46万泊、観光消費額は3,530億円と設定しております。また、ターゲット地域におきましては、欧米豪の富裕層を中心に考えております。また、その中でも、旅行先の文化や独自性、そして自分の価値感を重要視する層、物質的な豊かさより、精神的な豊かさを求める層などを中心としていますが、これにつきましても、このターゲット層だけに留まらずに幅広い視野を持ちながら展開する予定となっております。

3つ目の御質問にあります、ニューツーリズムについて、御提案をいただきありがとうございます。インバウンドについては、日本人の感性だけをベースに展開しても、必ず響く内容とは限りません。そのため、インバウンドを取り扱う旅行会社や、海外において事業展開している事業者などの外部の意見も取り入れながら、計画・実施しているところです。御質問にも挙げていただいたように、伊勢には歴史や日本文化を感じることができるものも多くありますが、大都市圏へ訪れる外国人観光客に対して、伊勢を発信する際には、なぜ伊勢に行くべきなのかを伝える必要があります。これまでも英国や米国でのイベント等実施や、アーティストの招聘、WEBでの情報発信など、様々な事業を実施しており、現在はインバウンドを実施していくための調査に加え、伊勢志摩広域でのプロモーションも予定しております。これらを実施していく中で、大阪関西万博開催を契機とした、インバウンド誘客に取り組みながら、認知度を向上させていく必要があります。これまで実施してきた事業などがインバウンド誘客につながるのであれば、訪日外国人が立ち寄る大都市圏からの誘客についても、行くべき場所として認知され、これまで以上の誘客につながると考えております。

以上で、皇學館高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。

◎伊勢高等学校山口颯斗議長

皇學館高等学校。

○皇學館高等学校

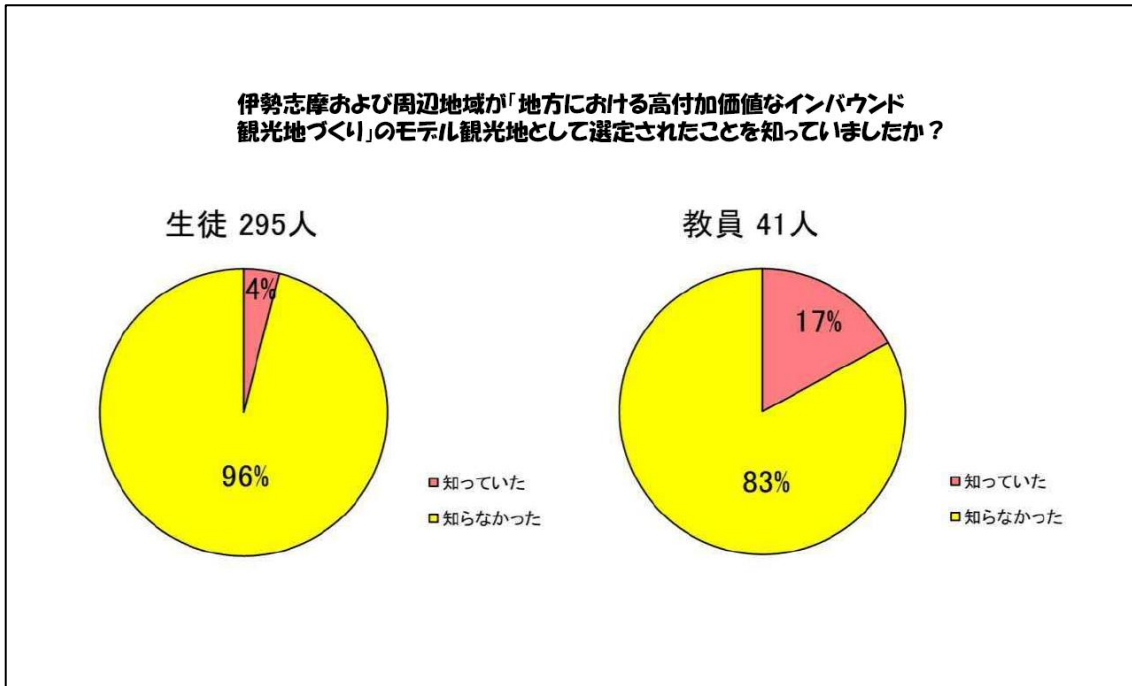
【6番 百々彩乃議員、7番 川原咲世議員、8番 文珠榮太議員】

御答弁ありがとうございました。伊勢市の地域活性化と観光推進をテーマに考える中で、外国人観光客の動向や伊勢の魅力を調べ、考えるよい機会となり、とてもおもしろく取り組むことができました。多様性がさらに増す中で、伊勢市が多くの人を受け入れられる柔軟性と楽しむことができる魅力ある街になってほしいと強く思いました。

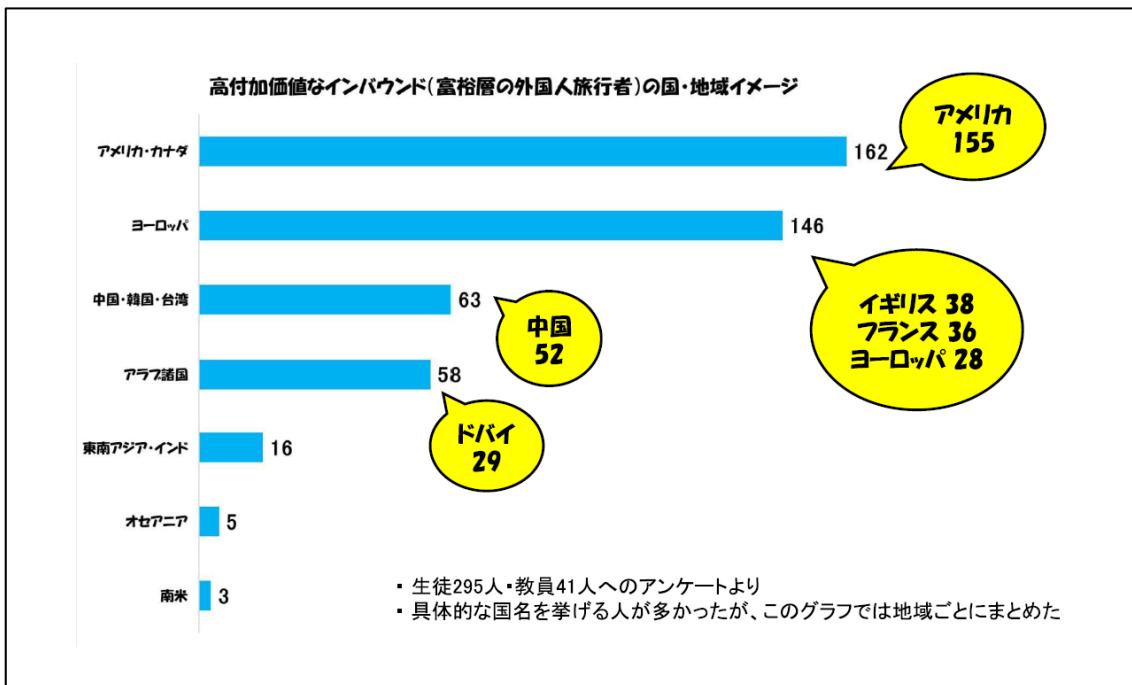
今回、調べた内容を今後の探究活動にも生かしていきたいと思っております。本日はありがとうございました。

資料 皇學館高等学校パネル資料

【資料①】



【資料②】



【資料③】

【アンケート集計結果】

伊勢市地域活性化に向けたニューツーリズム案

【食事】	【食事&体験】	【体験】	【その他】
食事めぐり	名物餅ツアー	日本文化体験(茶道・華道・武道・弓道etc)	レンタサイクル
食べ歩き	赤福づくり	伊勢木綿の着物着付け体験&伊勢めぐり	バスツアーで伊勢めぐり
伊勢エビツアー	寿司にぎり	着物体験(着物・和服レンタル)	伊勢Go To Travelチケット
郷土料理	茶道	神職服装体験	アニメ聖地巡礼
精進料理	和菓子作り	巫女さん体験	人力車めぐり
	うどん作り	海女さん体験	旅行者が作り上げていく宿
	酒造見学及び体験	忍者体験	(外観・内装・庭・畑)
	伊勢の味覚パッケージツアー	禊体験・座禅体験	ヒストリーツアー
		真珠アクセサリー作り	神社御神宝見学
		真珠とり	伊勢木綿などガチャガチャ
		伝統工芸品作り	
		組紐作り	
		書道(和紙作り体験~)	
		和太鼓体験	
		オリジナル招き猫づくり	
		釣り体験&ジャパニーズクッキング	

※2023年6月26日~28日実施

N=336(皇學館高等学校第2学年生徒295名及び教職員41名)

英心高等学校

【伊勢まつりと地域自治について】

◎伊勢高等学校山口颯斗議長

次に、英心高等学校、9番 作田湧紗久議員、10番 西川和志議員、11番 石井成昂議員。



○英心高等学校

【9番 作田湧紗久議員、10番 西川和志議員、11番 石井成昂議員】

英心高等学校より、「伊勢まつりと地域自治について」質問します。

今年の10月7日から8日に、ミッキーマウスとその仲間たちがやってくる「伊勢まつり」が開催されます。この「伊勢まつり」は、毎年9月下旬から10月上旬に行われていますが、もともとそのお祭りは、2008年までは「伊勢おおまつり」という名称で行われており、神宮の神嘗祭の日程に合わせて、10月15日から17日の間に開催されていました。

初穂曳は、1972年から毎年開催されています。その年に収穫された新穀をお木曳行事・お白石持行事と同様に、外宮へは陸曳で、内宮へは川曳で奉曳し、奉納されます。陸曳は、伊勢神宮奉仕会青年部が主催し、全国からの一日神領民も受け入れ、奉曳コースは、2007年は、第62回神宮式年遷宮お木曳行事と同じく、宮町交差点から南宮町交差点を經由して、外宮北御門までで行われました。川曳は、伊勢神宮奉仕会に属する内宮領の各学区で連合奉曳団を結成されます。奉曳コースは、お木曳行事・お白石持行事と同じく五十鈴川で、浦田橋下流の三重県立体育館裏から遡り、宇治橋手前で内宮境内に曳き上げます。

昨年度までは、新型コロナウイルスの影響もあり、お祭りが自粛されており、今年からは新型コロナウイルスの緩和が進み、全国各地でお祭りが開催されています。

今回、地域自治についての質問ですが、お祭りや地域自治を掛け合わせた内容をお聞きします。お祭りとは、伝統を大事にして、地域の方々が協力して作り上げていくものかなと思います。ただ、年々伝統が薄れていき、また地域の協力も薄れていく感じがしています。「伊勢まつり」についても、もともとは神嘗祭に合わせて実施をしていた「伊勢おおまつり」でしたが、さまざまな事情があり、「伊勢まつり」に名称を変えて、実施する日時も神嘗祭とはずらして実施をしています。現在も神嘗祭に合わせて実施しているのは宇治地区のみで、伊勢市全体の伝統は薄れていっている段階なのかなと思います。

そこで質問です。新型コロナウイルスによる制限がなくなり、また現在、日本は外国人観光客が増加をしています。さらに富裕層の外国人旅行者を呼び込むため、観光庁が伊勢志摩エリアをモデル観光地に選定をされました。そのため、今後インバウンドが増加していくことが見込まれます。このことを踏まえ、本来の祭りの姿を見てもらうことは、長期的に見ると、伊勢市の活性化にもつながりますし、外国人旅行者が日本への旅行で求めるものの中で、歴史・文化に触れることも入っています。それを踏まえて、感じてもらうことで外国人旅行者の満足度も高まり、地域においては、伝統の継承にもつながるので、市から各自治会に働きかけをしていただけたら、よりよい伊勢市になるかなと思います。伝統継承のことを踏まえると、神嘗祭に日程を合わせるのが大事なことになるかなと思います。日程を神嘗祭に合わせる伊勢まつりを復活させることはできないでしょうか。以上です。

◎伊勢高等学校山口颯斗議長

総務政策委員会、岡田善行委員長。



●岡田善行総務政策委員会委員長

英心高等学校の作田議員、西川議員、石井議員の質問にお答えさせていただきます。

市民の祭りである「伊勢まつり」については、明治 28 年から始まり、神宮の神嘗祭に合わせ、10 月 15 日から 17 日に開催していた「お伊勢大祭」の歴史を受け継いでいます。「お伊勢大祭」については、その後も継続され、「伊勢おおまつり」として市民に親しまれてきました。開催日の 10 月 15 日から 17 日は、市内の小中学校や一部の会社も休みとなり、祭りに参加するところもありました。また、質問にもありましたように、昭和 47 年からは、初穂曳も毎年開催されています。

しかし、昭和 60 年代頃から、祭りを理由に、学校や会社を休みにすることが難しくなり、参加者、観覧者ともに参加しやすく、訪れやすいよう、平成 3 年から土曜日と日曜日の開催となりました。一方、初穂曳は神嘗祭の日程に合わせ実施されてきました。その後、平成 17 年の市町村合併により、「伊勢おおまつり」を行っていた旧伊勢市、旧二見町、旧小俣町、旧御菌村が新しい一つの市となったことから、市民みんなの一体感を醸成していく市民のための祭りが求められるようになりました。関係団体等による話し合いを行い「伊勢おおまつり」を神嘗祭の奉祝と市民のための祭りの二つの要素に分け、奉祝の部分を「神嘗奉祝祭と初穂曳」として、引き続き神嘗祭の日程に合わせ行い、市民祭りの部分

を「伊勢まつり」として、引き続き土曜日、日曜日に開催するようになりました。

このような経過から、市民祭りの要素を持ちながら、「伊勢まつり」を神嘗祭の日に合わせることは、大変難しいと思われます。

そのような状況ですが、「伊勢まつり」で披露されている、御神輿やねぶた飾り車の運行、お木曳車の展示、手筒花火など、地域の特色ある行事の披露が参加者の伝統継承の意欲につながっていると認識しています。また、伊勢市では、御木曳行事、御白石持行事の無形民俗文化財を伝承していくため、伊勢御遷宮委員会、伊勢神宮奉仕会等と協力し、各地域へ奉曳団、奉献団の結成へ向けて、取組を進めています。

皆さんがインバウンドや伊勢の文化や歴史に興味を持ち、いろいろと調べ、考えていただいたことが、大変うれしく、頼もしく思います。地域の祭りを大切にし、伝統、文化を守っていくことは重要です。地域でも、お頭神事やかんこ踊り等の伝統文化が継承されていますが、継承していくための担い手問題が危惧されています。みなさんもぜひ、地元地域の行事に積極的に関わっていただきたいと思ひます。

以上で、英心高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。

◎伊勢高等学校山口颯斗議長

英心高等学校。

○英心高等学校

【9番 作田湧紗久議員、10番 西川和志議員、11番 石井成昂議員】

答弁いただき、ありがとうございました。地域文化を守り、継承していくために、私たちもできることを考えて、貢献することができたらと思ひます。もし、できることがありましたら、お声掛けいただき、ぜひ参加させていただきたいと思ひます。本日は貴重な時間をありがとうございました。

◎伊勢高等学校山口颯斗議長

ただいまより、15時まで休憩とします。再開3分前にブザーが鳴りますので、ブザーが鳴りましたら、自席までお戻りください。

休憩 午後2時45分

再開 午後3時00分



◎伊勢高等学校山本泰雅議長

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。
 伊勢高等学校の山本泰雅です。よろしくお願いいたします。
 市政に対する質問を継続いたします。

伊勢学園高等学校

【伊勢市の子育て支援について】

◎伊勢高等学校山本泰雅議長

次に、伊勢学園高等学校、12番 清川歩楓議員、13番 大田帆乃夏議員、14番 家田梨瑚議員。



○伊勢学園高等学校

【12番 清川歩楓議員、13番 大田帆乃夏議員、14番 家田梨瑚議員】

伊勢学園高等学校です。よろしくお願いいたします。伊勢市の子育てハンドブックを拝見させていただきました。その中に、健診や予防接種、経済的なサポート、病気やけがの時のこと、相談窓口などたくさんの情報が分かりやすく記載されており、伊勢市では、子育てをする保護者に対して、手厚くサポートをしているということが分かり、子育てをする保護者にとっては非常にありがたいハンドブックだと感じました。さらに、令和5年5月にオープンしたミライセの情報も掲載されていました。伊勢市駅前を利用し、1つの建物の中に子育てから福祉関係まで入っているということで、だれでも気軽に利用するこ

とができる施設だということが分かりました。

しかし、保護者から依頼をすればサポートをしてくれるのは分かっているけれども、実際には、乳幼児健診では時間がなくてなかなか相談することができなかつたり、こんなことで相談していいのかなど、相談したくてもできない方がたくさんいるのではないかと思います。

伊勢市では、そのような人に対してどのような行動を起こしているのか、また、今後どのようにして手立てをしていこうと考えているのか、そして、今後、子育てしやすい市を目指してどのような計画を立てられているのか、御意見をお伺いしたいと思います。

◎伊勢高等学校山本泰雅議長

教育民生委員会、吉岡委員。



●吉岡勝裕教育民生委員会委員

伊勢学園高等学校の皆さんからの質問、「伊勢市の子育て支援について」お答えします。

子育て支援としましては、令和5年5月に開設した健康福祉ステーションを拠点に、妊娠・子育て期の各段階で、きめ細かく関わり、相談に応じることで、妊娠期から、切れ目のない支援体制を構築しております。健康福祉ステーション6階にあります、ママ☆ほっとテラスは、保健師と助産師が常駐し、妊娠中から気軽に立ち寄り、話ができる拠点となっており、たくさんの妊婦さんや出産後のお母さんが来所していただいております。

ママ☆ほっとテラスへ妊娠を届け出て、母子健康手帳をお渡しする際には、保健師が全ての妊婦さんと面談し、健やかな妊娠・出産・育児に向けて、妊婦さん自身が必要なサービスを適切に選択し、利用していただけるよう、母子保健サービスが記載されているリーフレット、ママ安心サポートいせ（サポートプラン）を渡しています。また、相談しやすい雰囲気づくりとともに、妊娠8か月頃と出産後には、市のほうから継続的な情報発信や面談を行い、必要な支援につなげております。

さらに、継続した支援が必要な方には、各学校区を担当する保健師が、妊娠中から家庭へ訪問する等、継続した関わりを持つことで、保護者の方と信頼関係を築き、相談につながるよう努めております。

健康福祉ステーションでは、子供に関する母子保健サービスと子育て支援サービスを一体的に行っており、市民の方々に身近な保育所や子育て支援センター等とも連携しながら、子育て支援の充実を図ってまいります。

次に、計画については、本市では、全ての子供の健やかな成長を実現し、安心して子育てができるまちづくりを進めるため、伊勢市子ども・子育て支援事業計画を策定しています。現在、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間とし、妊娠・出産から乳幼児期、学童期や思春期など、各ライフステージに合わせた子ども・子育て支援施策を推進しているところです。

国では、今年4月に、こども家庭庁を創設し、こども施策を総合的に推進する基本方針や重要事項を定める、こども大綱を今年秋頃に策定する見込みです。この大綱を踏まえて、こども施策全般を束ねる子どもに関する最上位計画が、自治体こども計画になります。

伊勢市では、今後、こども計画や子ども・子育て支援事業計画など、子育て世代の皆さんや子供自身の意見を反映させた上で、計画を策定し、子育てしやすいまちづくりを目指して取り組んでまいります。以上で伊勢学園高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。

◎伊勢高等学校山本泰雅議長
伊勢学園高等学校。

○伊勢学園高等学校

【12番 清川歩楓議員、13番 大田帆乃夏議員、14番 家田梨瑚議員】

分かりやすく、丁寧な答弁ありがとうございました。伊勢市では、保健師・助産師と妊婦さんとの関わりが非常に深いことが分かりました。また、出産後も各ライフステージに合わせた子ども・子育て支援をしていただけたということが分かりました。

こういった取組は、私たちの不安を払拭してくれると感じました。安心して相談することができる場所があるということ、気軽に立ち寄ることができる場所があるということ、子育てをすることのできる地域であると感じました。

さらに、今後の計画等も進めていただき、より一層子育てしやすい市を作っていただけるよう、よろしく願いいたします。

伊勢まなび高等学校

【特定外来生物の対応策について】

◎伊勢高等学校山本泰雅議長

次に、伊勢まなび高等学校、15番 池山愛理議員、16番 西山龍青議員、17番 廣桐威議員。



○伊勢まなび高等学校

【15番 池山愛理議員、16番 西山龍青議員、17番 廣桐威議員】

伊勢まなび高等学校です。この度は、このような貴重な機会をいただきまして、ありがとうございます。今回、私たちは、伊勢市における生態系への影響が懸念され、輸入、放出、飼養、譲渡等の禁止といった規制のある特定外来生物の対応策について、御質問させていただきます。

現在、伊勢市で特定外来生物として指定されているアライグマは、鳥獣被害防止計画の対象となっていますが、アカミミガメも伊勢市の自然環境に悪影響を与える可能性があるにもかかわらず、特に対処が取られていない状況です。アカミミガメは、1950年代にミドリガメの通称でペットとして輸入され、販売されていたため、簡単に入手できましたが、今年の6月1日から、条件付特定外来生物に指定されました。このことを受け、これから起こりうる被害にも目を向け、対策に取り組む必要があると考えます。このような考えに至った経緯は次のとおりです。

【写真①、②】まず、この写真をごらんください。伊勢市一色町にある用水路です。先日、水路にアカミミガメがたくさんいるところを撮影しました。幅が1.3メートル程度の細い流れですが、この日、用水路沿いを300メートルほど歩いただけでも、等間隔でアカミミガメの姿を確認しました。大きいものから小さいものまでたくさんいました。また、用水路の周りは田んぼがあり、収穫時期には稲が倒されるなどの農作物被害がでるかもしれないと不安になりました。

【写真③】こちらは、通学中に撮影したものなのですが、このように車の通行の妨げにもなっています。【写真④】アカミミガメは、噛む力が強く、サルモネラなどの菌をもっているため、遊んでいる子どもが噛まれ、怪我をする恐れや、感染症にかかる可能性もあると思います。また、雑食性で繁殖力が強いため、在来水草や生物を捕食したり、日光浴の場所を巡ってほかのカメと競合し、在来種のニホンイシガメやクサガメが駆逐され

たりするなど、さまざまな悪影響を与えてしまうことも考えられます。

兵庫県の明石市では、平成 26 年に、あかしの生態系を守る条例が制定されています。その条例のもと、平成 29 年 4 月に神戸市と協働で明石・神戸アカミミガメ対策協議会が設立され、市民参加型のアカミミガメ防除活動が実施されました。活動の内容は、罾の貸し出しとその技術指導、誰でもできるアカミミガメ防除のマニュアルの作成、アカミミガメの引き取りを行うカメラダイヤルの設置等です。

結果として、アカミミガメの大幅な減少が確認され、オニバス等の希少な水草、イシガメ、コウノトリ等の希少な生物の復元につながりました。SDGs の目標の一つにも陸域生態系の保護があります。現状のままでは、伊勢市の河川の生態系が持続されるどころか、壊れていく可能性があります。伊勢市の自然を守るための手段の一つとして、他自治体と同様の活動に取り組むことが必要ではないでしょうか。以上です。

◎伊勢高等学校山本泰雅議長

教育民生委員会、辻副委員長。



●辻孝記教育民生委員会副委員長

伊勢まなび高等学校の皆さん、池山愛理議員、西山龍青議員、廣桐威議員からの質問にお答えさせていただきます。

アカミミガメはアメリカ原産で、40 年以上生きることもあり、長生きで、甲羅は 30 センチくらいまで育つと言われております。皆さんのおっしゃるとおり、アカミミガメは 1950 年ごろに国内で大量に流通し、安価であったため、多くの人が気軽に飼い始めました。そして、大きくなるにつれ、飼育しきれなくなった個体が捨てられたり、また、逃げ出したりして、各地で野生化が進んできたと言われております。また、アカミミガメは、貝、カエル、昆虫、水草、植物の葉、花、果実など何でも食べます。そのため、日本各地で栽培されているレンコンなどが食害にあったり、在来種のニホンイシガメやスッポンの生息を脅かしたりして、何かと悪者扱いされております。

このような状況の中、国では段階的に規制していく方向が取られており、現在は、環境省の条件付特定外来生物に指定されています。この条件付特定外来生物は、外来生物法に基づき、特定外来生物に指定された生物のうち、通常の特定期間外生物の規制の一部を、当分の間、この規制にかからないようにしている生物の通称です。通常の特定期間外生物に指定されると、野生のアカミミガメの捕獲・飼育・運搬は禁止になり、また、飼育中の場

合は、環境省の飼育許可が必要となります。厳しい規制を行うと、現在、飼育されているアカミミガメが捨てられてしまう恐れや、今も適正に飼育している人が相当数いることなどが背景となっております。

一色町の用水路もそうではありますが、現在、アカミミガメは、私たちにとって、もっとも身近な生き物の一つとなっております。アカミミガメが悪者というわけではなく、環境に適応して、たくましく生きているだけだと思います。

伊勢まなび高校の皆さん、貴重な御意見をありがとうございます。用水路のアカミミガメの駆除については、とてもたくさんの人出が必要となりますが、市民参加のよい御提案をいただきました。地域の環境をよくしたいと思ってくれている皆さんのような方々に御協力をいただければ、市としても一緒に実施できるのではないかと考えます。このような取組を市民の皆さんに紹介することを通して、アカミミガメは外来種であること、生態系等に悪影響を及ぼす可能性があることなどについて、知ってもらうきっかけとなり、アカミミガメの飼い主には、飼い続ける責任があること、逃げ出さないよう、飼育環境を保つことを認識してもらいたいと考えます。

以上で、伊勢まなび高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。

◎伊勢高等学校山本泰雅議長

伊勢まなび高等学校。

○伊勢まなび高等学校

【15番 池山愛理議員、16番 西山龍青議員、17番 廣桐威議員】

御答弁いただきありがとうございます。今回、このような場を与えていただき、伊勢市議会の方々から直接お話を伺うことができ、私たちも環境問題について考える大変貴重な機会となりました。

自然環境の保全・改善をしていくにはたくさんの人手が必要なことが分かり、大変勉強になりましたが、今もニュースやインターネットでは国内のいくつかの沼などでアカミミガメにハスが食べつくされるなどの報道がされています。伊勢市でも、同様のことが起こらないよう、行政において引き続き注視していただければと思います。

これを機会に、高校生の私たちにも何かできることはないかと考え、これからはアカミミガメに限らず、生き物を飼う際の責任を周囲に認識してもらうため、学校内や地域の方々に呼びかけていきたいと思えます。また、伊勢市で市民参加でのアカミミガメの防除活動や環境改善のための行事が行なわれる際には、ぜひ参加させていただきたいと思えます。本日はお忙しい中、ありがとうございます。

資料 伊勢まなび高等学校パネル資料

【写真①、②】

【写真①・②】



【写真③】

【写真③】



【写真④】

【写真④】



◎伊勢高等学校山本泰雅議長

ただいまより、15時30分まで休憩とします。再開3分前にブザーが鳴りますので、ブザーが鳴りましたら、自席までお戻りください。

休憩 午後3時19分

再開 午後3時28分



◎宇治山田商業高等学校山崎成悟議長

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

宇治山田商業高等学校の山崎成悟です。よろしくお願いいたします。

市政に対する質問を継続いたします。

宇治山田高等学校

【少子化対策と地域活性化について】

◎宇治山田商業高等学校山崎成悟議長

次に、宇治山田高等学校、18番 田畑紗耶花議員、19番 西原玲菜議員、20番 木村董議員。



○宇治山田高等学校

【18番 田畑紗耶花議員、19番 西原玲菜議員、20番 木村董議員】

本日は、お忙しい中、このような貴重な時間を設けていただきありがとうございます。私たちは、宇治山田高校2年の西原玲奈、木村董、田畑紗耶花です。本日はよろしくお願ひします。

私たちは、私たちの住んでいる伊勢市の少子化が進んでいることが気になって、伊勢市の少子化と地域活性化というテーマで学習をしています。近年、少子化についてのニュースをよく耳にします。先日、岸田総理は、異次元の少子化対策について話されていました。私自身、住んでいる地域の小学校や中学校・高校の生徒数が少なくなっているのではないかと考えています。現在の日本において、少子化は社会問題として扱われていますが、そもそも、少子化が進行すればどのようなことが問題なのでしょうか。少子化が問題視される原因を教えてください。

次に、少子化対策の現状と課題についてです。特に、少子化対策の一つである子育て支援についての質問です。例えば、子育てに関して、支援を必要とされる方に支援が届いていないことがあると思われるのですが、そういった方をどのように把握されていますか。支援へとつなげる仕組みづくりについて教えてください。

子供を育てる保護者や地域住民などから子育て支援に関してどのような要望がありますか。また、その要望をどのように取り入れられていますか。子供を育てる保護者や地域住民など、皆さんの声に耳を傾けて、どのように反映されているのでしょうか。お答えいただける範囲で教えてください。

少子化には、未婚化や晩婚化の進展といった原因があると考えました。時代とともに結婚に対する価値観や意識が変化していることが背景にあるのではないかと私たちは考えています。そこで子育て支援以外の少子化対策があれば教えてください。

伊勢市の子育て支援事業として、相談支援や経済的支援などに力を入れて取り組まれ

ていることをホームページで拝見しました。何か、高校生の私たちも一緒になって少子化対策に向けてできることはありますか。

最後の質問です。私たちは少子化対策と地域活性化とは関係があると思っています。どのようなまちを作り上げることを想像されて対策を行われていますか。以上、よろしくお願いします。

◎宇治山田商業高等学校山崎成悟議長
総務政策委員会、川口委員。



●川口浩総務政策委員会委員

宇治山田高等学校の皆さん、「少子化対策と地域活性化について」御質問いただきありがとうございます。本市においても、ほかの多くの地域と同様に少子化が進んでおり、年少人口といわれるゼロ歳から14歳の人口は、この10年間で2割近く減少しています。お尋ねの少子化が問題視される原因ですが、このまま少子化が進むと、人口減少が進み、医療・介護サービスの担い手不足、地域の小売・生活関連サービスの衰退、交通・道路などのインフラ維持管理が難しくなるほか、人口構造の変化により、現役世代が高齢世代を支える世代間扶助の制度など、これまでの社会機能の維持が困難になることが挙げられます。

次に、支援を必要とされる方を子育て支援へつなげる仕組みづくりですが、本市では、子育て支援サービスの情報発信として、広報いせや市ホームページ、公式LINEなどを通じて、子育て世代の皆さんへ広くお知らせしています。また、妊婦さんが、伊勢市健康福祉ステーション内の、ママ☆ほっとテラスへ妊娠を届け出た際に、母子健康手帳と一緒に子育て支援に関する各種制度や子育て関連施設等の情報を一冊にまとめた、伊勢市の子育てハンドブックをお渡しして、子育て支援の情報を届けています。このほか、保健師による妊婦訪問、赤ちゃん訪問や乳幼児健診を通じて、全ての妊産婦さんへの情報発信や面談を行い、必要な家庭へ支援がつながるよう取り組んでいます。さらに、継続的な支援が必要な家庭には、地区担当の保健師が継続した関わりを持ち、信頼関係を築きながら、相談につながるよう努めています。

次に、子育て支援の要望内容やその反映についてですが、毎年、子育て支援に関して未就学児のいる世帯を対象に、アンケート調査を行い、様々な子育て支援の要望をいただいています。内容としましては、手当額の増額、保育料の無料化や医療費助成の18歳までへの拡充などがございます。お子さんを育てていく上で、必要となる経済的負担の軽減

の要望が多く、昨今の物価高騰の影響もあり、家計が厳しいとのお声も多くいただいております。このほかに、公園の遊具や遊べる施設の充実、保育所や放課後児童クラブ等の保育サービスの整備・運営等の充実を望む声もごさいます。市民に納めていただいた税金が最大限に効果を発揮されるよう、優先順位等を検討した上で、子育て支援施策を進めているところです。要望内容を検討して実施した事業としましては、親子3人乗り自転車の購入費用を補助する事業について、アンケートではレンタルを望む声も多くございましたので、令和5年度から、購入補助事業に加えて、新たにレンタル事業を開始しております。

次に、子育て支援以外の少子化対策ですが、おっしゃられるように未婚化や晩婚化も少子化の要因と考えられることから、本市では、出産、子育ての前段階である出会いや結婚の支援を行うために、平成27年から、いせ出会い支援センターを開設しています。いせ出会い支援センターでは、結婚に関する相談事業や出会いの機会、情報の提供を近隣市町や企業と連携し、行っています。

次に、高校生の皆さんによる少子化対策についてですが、高校生の皆さんが、伊勢は子育てしやすい、大人になっても伊勢で暮らしたい、と思えるまちづくりと一緒に取り組んでいければと考えています。今後、本市では、高校生を含む、子供の意見を反映したことも施策の策定に努めてまいりますので、皆さんも周囲の子育て世帯や教育環境について関心を持っていただき、気づいたことを市民の声として本市へ届けていただきたいと思います。また、時間が許せば、ボランティアとして子育てサークルなどにも積極的に参加していただければと思います。

最後に、どのようなまちを作り上げることを想像して対策をしているかですが、本市が行う政策や事業の根拠となる最上位計画となる第3次伊勢市総合計画・中期基本計画において、「子どもたちの笑顔があふれ、幸せに年齢を重ねられるまちづくり～笑子・幸齢のまちづくり～」を取組方針として掲げて、まちづくりを進めているところです。少子化対策や地域活性化は、行政の取組だけで実現できるものではありませんので、皆さんのような若い世代の力も借りて、取り組んでいきたいと考えておりますので、御協力いただきますようお願いいたします。

以上で、宇治山田高等学校の皆さんへの答弁といたします。

◎宇治山田商業高等学校山崎成悟議長

宇治山田高等学校。

○宇治山田高等学校

【18番 田畑紗耶花議員、19番 西原玲菜議員、20番 木村董議員】

質問にお答えいただき、ありがとうございました。少子化によって社会にもたらされる問題や私たちができる少子化対策について、より詳しく知ることができました。また、よりよいまちをつくるために、様々な政策や事業に取り組まれていること、そして行政や専門機関だけでなく、地域全体で支え合うことや行動していくことが大切だと分かりました。今日、お聞きしたことを今後の学習に活かして、少子化問題について、私たちのできることを考えていきたいと思っております。本日はお忙しい中、このような貴重な時間を設けていただきありがとうございました。

伊勢工業高等学校

【伊勢市の観光資源の再発見と人材育成について】

◎宇治山田商業高等学校山崎成悟議長

次に、伊勢工業高等学校、21番 世古口仁汰議員、22番 加藤光樹議員。



○伊勢工業高等学校

【21番 世古口仁汰議員、22番 加藤光樹議員】

伊勢工業高校生徒会長の世古口仁汰です。副会長の加藤光樹です。今日は、伊勢市の隠れた観光地の再発見と伊勢市の次の人材育成について質問します。よろしくお願いいたします。

まず、伊勢市の隠れた観光地の再発見です。伊勢市は、内外ともに伊勢神宮で有名で、日本中、世界中に知られています。しかし、ほかにも多くの魅力のある場所がたくさんあり、そのうちの一つに、私の住む二見町があります。二見町は街道沿いに商店街があり、夫婦岩や興玉神社などがあります。しかし、二見町の住民から見て、あまり魅力が伝わっていないように感じます。そこで、今回は二見町の魅力を活かした、まち全体のリノベーションを提案したいと思います。鳥取県境港市にある水木しげるロードのように、道と店舗が一つのコンセプトでまとめられて、昼夜問わず、散歩したくなるような仕掛けをつくることです。水木しげるロードには、多くの仕掛けがあり、その中の一つに、妖怪の影をライトアップして見せることができます。このように、一つのコンセプトのもと、まち全体をリノベーションすることで、伊勢神宮までとは言いませんが、興玉神社だけではない二見町を楽しんでもらえるのではないのでしょうか。

また、二見町にはJR参宮線の二見浦駅があります。1時間に1回とあまり便利とは言えませんが、逆に、1時間コース、2時間コースと、滞在時間によっておすすめコースを提供できるのではないのでしょうか。

次に、伊勢市の次の世代を担う人材育成の提案です。二見町では、この4月から二見中学校や小学校が光の街に移転しました。このような、学校統合で利用されなくなった跡地等を利用し、子供たちのものづくり、スポーツの人材育成の場を作れないかと考えます。僕たちは工業高校の生徒で、各科で学習したのものづくりの楽しさを子供たちに伝えることができます。伊勢工業は、今年の1月にイオン明和で小学生講座を行い、多くの子供たちに伝えることができる実績もあり、G7三重・伊勢志摩交通大臣に贈られた日本酒の化粧

木箱を作成した世界レベルのものづくりの技術も持っています。

また、スポーツでは、伊勢市は倉田山球場やフットボールビレッジとスポーツに打ち込める場所が多くありますが、子供たち目線で見ると、ボールを使用するのが禁止されている公園なども増えてきていることから、気楽に楽しめる環境が減ってきているのではないのでしょうか。この利用しなくなった学校のグラウンドで、伊勢市内で毎日練習に励んでいる多くの高校生が教え手となり、野球教室やサッカー教室等を行うのはどうでしょうか。小さい子供や小学生にスポーツの魅力や楽しさに気づいてもらうことができるのではないのでしょうか。ぜひ、伊勢市民による伊勢市民のための楽しくなる催し計画をしていただき、次の人材育成の道筋をつけてほしいです。

最後に、伊勢市の住民である僕たちが、次の世代の育成や伊勢に興味を持ってきてくれた方へのおもてなし、これらの活動で楽しんでもらいたいと思います。当然ですが、地元の人が楽しんで暮らせるようなまちは、必ず観光客にも楽しんでもらえると思います。伊勢市に住む僕たち一人一人が、伊勢市をよりよくする協力をしたいと思います。

私自身、地元が伊勢であることをうれしく、楽しく、そして、伊勢の未来に期待したいです。ぜひ、僕たちによりよい伊勢市になるため協力させてください。以上です。

◎宇治山田商業高等学校山崎成悟議長

産業建設委員会、野崎委員長。



●野崎隆太産業建設委員会委員長

伊勢工業高等学校の皆さんからの御質問、「伊勢市の観光資源の再発見と人材育成について」にお答えいたします。

伊勢市は、神宮御鎮座のまちとして、古くから多くの観光客を受け入れてきておりますが、市が実施しております、観光客実態調査の結果によると、神宮やおはらい町・おかげ横丁などの内宮エリアへの立ち寄りが多い傾向が続いております。そのため、内宮エリアを誘客の核にしつつも、日帰り観光から宿泊型の観光形態への転換や滞在時間の延伸、また、多様な観光ニーズに対応していくためにも、市内もしくは伊勢志摩地域内への周遊促進のため、観光施策を実施しているところです。御質問にもありました二見エリアの活性化につきましても、観光客誘客促進に向け、例えば、国指定有形文化財である賓日館などの文化遺産や、地元ならではの絶景スポットである潜島など、様々な事業にてストーリーやコンセプトを掲げながら展開しているところです。

また、伊勢市の観光地の再発見として御提案いただきました、二見町の魅力を活かした、まち全体のリノベーションにつきましては、道と店舗がコンセプトを共有したり、特徴的なモニュメントを配置したり、ライトアップの仕掛けをすることで、歩きたくなる空間を演出するというのは、エリア全体の価値を上げる取組であると考えられます。しかし、ライトアップ機器の導入経費や継続的に運用する場合の運用経費など、実際の事業化には、事業を実施するための大きく予算確保も必要となってまいります。

また、まち全体のリノベーションを前提にすると地域の事業者としても大きな負担を求めることになると思いますので、地元事業者等の意向も踏まえ、費用と効果を見極めながら検討してまいりたいと思います。なお、現状実施している施策としては、二見浦・夫婦岩表参道を中心に、木造旅館や店舗等が見られる歴史的なまちなみを形成していることから、伊勢市景観計画において、二見町茶屋地区を重点地区に指定し、一定の基準に沿ったまちなみ景観の形成を行い、夫婦岩だけではなく、二見町全体を楽しんでもらえるよう取り組んでいるところでございます。

その他、JR二見浦駅から二見興玉神社に至るまで、宿泊施設や飲食店などが一体となって協力をし、おひなさまの展示やスタンプラリーなどを実施するイベント、おひなさまめぐり。こちらは、地域で活動されているNPO法人や住民の皆さまの主導により、長年実施していただいております。このような、地域主導によるイベントや二見町の特徴を活かした景観形成など、引き続き情報を把握し、今後も同様の考えのもと、関係観光団体とも協力の上、魅力発信など取り組んでまいります。

次に、滞在時間によっておすすめコースを提供する御提案に関し、お答えします。起点を二見浦駅に限らずエリア全体での滞在を前提にした場合、二見町地域の観光施設の中でも核となる賓日館については、今後も安全・安心で良好な建築物として楽しんでもいただけるよう改修を予定しております。賓日館を含め、地域が一体となった景観形成基準等の地域の取組などの文化的な魅力を知っていただけるような取組についても、重要であると思いますので、街並みを含めた案内など、ゆっくりと二見浦の景観を楽しみながら、観光案内を楽しむ仕組みやニーズについても地元観光事業者などと協議を進め、深めてまいります。

次に伊勢市の次の世代を担う人材育成の提案についてお答えします。高校生が教え手となったサッカー教室等、スポーツ人材育成の場づくりについては、スポーツ人材育成は重要であり、その場所として学校跡地を有効活用することは考えられると思います。伊勢市は、皇學館大学と連携し、部活動部員が小学生を指導する各種スポーツ教室をコロナ禍の時期を除き、毎年実施しています。小学生がスポーツに親しむきっかけになるとともに、大学生の指導者として、資質向上につながっています。このことから、子供達に年齢が近い高校生の皆さんが楽しく指導していただくことは、スポーツの人材育成や子供達の健全育成など、様々な効果が期待できると考えます。

一方で、ものづくりも含め、学校跡地を利用したスポーツ教室等の御提案実施に向けては、学校跡地の維持管理にかかる経費やスポーツ教室等を開催するための経費、学校との調整、指導者となる高校生の確保、事故への対応、子供達への周知など、一つ一つ課題を抽出し、解決した中で進めていく必要があると考えます。市としましては、子供達がスポーツの魅力や楽しさに気づいていただき、一生涯スポーツを楽しめる環境作りに努めて

まいりたいと考えております。

最後に、伊勢に住む住民一人一人が、伊勢市をよりよくする協力を行うことは、非常に重要なことであると考えております。現状としても、小学生向けの事業として観光資源について学ぶとともに、おもてなしを体験いただく、市主催の「伊勢っ子」育て事業や、伊勢商工会議所主催の「伊勢っ子ものしり王選手権の優勝者によるおもてなし体験」などが実施されています。様々な主体でおもてなしの体験の機会の創出をしております。今後、小学生だけでなく中学生、高校生、大学生、社会人など、幅広い年齢層における観光案内やおもてなしを実施できるような活躍の場創出に向け、来訪者と受け入れ側、双方の満足度が高くなる施策を、観光案内を実施している団体等と協議を深めて推進してまいりたいと考えております。

以上で伊勢工業高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。

◎宇治山田商業高等学校山崎成悟議長

伊勢工業高等学校。

○伊勢工業高等学校

【21番 世古口仁汰議員、22番 加藤光樹議員】

御回答、ありがとうございます。高校生なので、物事を計画する際に必要なお金の規模はよく分かりませんが、近隣の市では、観光庁の助成事業を利用して誘客に関するものを整備したり、市と高校生が手を取り合って、地域向け講座を開催したりしていると聞きます。ぜひ、伊勢市でも実現に向けてお手伝いさせていただければと思います。

今回は、議会参加の機会をいただきましてありがとうございます。もっと、伊勢市が好きになりました。ありがとうございました。

◎宇治山田商業高等学校山崎成悟議長

以上をもちまして、市政に対する質問を終わります。

それでは、議長席を交代します。

◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長

それでは、広報広聴検討分科会の上村和生会長から感想を申し上げます。

上村会長の感想



○上村和生広報広聴検討分科会会長

本日は、貴重な夏休みにも関わらず、高校生議会に参加いただきまして、誠にありがとうございました。質問に、議長役にと、長時間大変お疲れさまでした。私は、今回高校生議会を企画・検討させていただきました、広報広聴検討分科会で会長を務めさせていただいています上村と申します。

令和元年度に高校生議会を初めて開催をしました。それ以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催ができない年もありましたが、今年は昨年に引き続き、無事開催をすることができました。

感想とのことですけれども、伊勢高等学校からは、「教員の過重労働問題について」、それから、宇治山田商業高等学校からは、「災害が起きた時の対策について」、皇學館高等学校からは、「観光地活性化とグローバル化について」、英心高等学校からは、「伊勢まつりと地域自治について」、伊勢学園高等学校からは、「伊勢市の子育て支援について」、伊勢まなび高等学校からは、「特定外来生物の対応策について」、それから、宇治山田高等学校からは、「少子化対策と地域活性化について」、最後に、伊勢工業高等学校からは、「伊勢市の観光資源の再発見と人材育成について」と、様々な観点から、私たちではなかなか気づかないような御意見もたくさんいただきました。私たち議員にとっても、大変貴重な機会になったのではないかなというふうに思っております。

本日、いただいた御意見につきましては、議員として市政に反映できるよう、努力してまいりたいというふうに思います。

皆さん、緊張されたかと思いますが、堂々と質問される姿を見させていただいて、この中から将来、伊勢市議会議員になっていただだける方が何人かいたら、伊勢市は安泰だなというような思いで見させていただきました。

本日の経験を活かして、様々な分野で今後活躍されることを御祈念申し上げまして、私からの感想とさせていただきます。皆さん、大変お疲れさまでした。今日は、どうもありがとうございました。

◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長

上村会長、ありがとうございました。

最後に、主催者を代表いたしまして福井輝夫副議長から御挨拶を申し上げます。

副議長あいさつ



○福井輝夫副議長

高校生議員の皆さん、お疲れさまでした。伊勢市議会で副議長を務めております福井と申します。

皆さん、どうですか、多少は緊張感も取れましたかね。本日は、高校生の皆さんが日頃、伊勢市にどのような思いを持っていただいているのか、高校生ならではの目線で、率直な意見を聞かせていただく大変貴重な機会となりました。

また、議長役4名の方とそれから質問をされた方、大変緊張されたことと思いますが、立派に務められましたことを、大変素晴らしく感じました。今回の経験を通じまして、市議会ならびに市政への関心をさらに高めていただいて、先ほど上村会長もおっしゃってみえましたが、将来、願わくば、市議会議員に立候補していただけると大変うれしく思います。ぜひ、いろいろなことを勉強して、やっていただきたいと思います。

私たち議員も、高校生の皆さんのように若い視点を取り入れながら、今後の議会での議論をさらに進めていきたいと考えております。今後もこのような意見交換の場を幅広く持たせていきたいと考えておりますので、引き続き、伊勢市議会の活動に御理解、御協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

最後になりますが、開催にあたりまして、御尽力をいただきました高等学校の関係者の方々、引率の先生方、それから、傍聴に来ていただいた皆様方に御礼を申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。本当に本日は、ありがとうございました。

◎藤原清史広報広聴検討分科会副会長

福井副議長、ありがとうございました。

以上で、本日の議事内容は終了いたしました。

これをもちまして、伊勢市高校生議会を閉会いたします。

御参加いただきました皆様方、ありがとうございました。

閉会 午後4時02分